

標準委員会 リスク専門部会 外的事象 PRA 分科会
第 14 回 断層変位 PRA 作業会 議事録

1. 日 時：2019 年 9 月 26 日（木） 9:30-12:30
2. 場 所：電力中央研究所大手町オフィス 733 会議室
3. 出席者（敬称略）：
【出席委員】糸井主査、蛭沢副主査、神谷幹事、酒井幹事、青柳委員、藤岡代理（織田委員）、佐々木委員、田中委員、仁平委員、原口委員、肥田委員、松村委員、美原委員、牟田委員、渡辺委員、渡邊委員（16 名）
【常時参加者】梅木、高嶋、堤、中野、福嶋、藤井、湯山（7 名）
【欠席委員等】奥村委員、高尾委員、中村委員、吉田委員、成宮常時参加者
4. 配布資料：
RK6WG5-14-0 議事次第
RK6WG5-14-1 前回議事録（案）
RK6WG5-14-2-1 断層変位 PRA 実施基準策定スケジュール（案）
RK6WG5-14-2-2 当面のスケジュール/準備資料
RK6WG5-14-3 断層変位 PRA 実施基準（中間報告）標準委員会意見募集結果とその対応
RK6WG5-14-4 まえがき
RK6WG5-14-5 原子力発電所に対する断層変位を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：202X 解説
RK6WG5-14-6 原子力発電所に対する断層変位を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：202X
RK6WG5-14-7 5 サイト・プラント情報の収集・分析と事故シナリオの概括的分析
RK6WG5-14-8 6 断層変位ハザード評価
RK6WG5-14-9-1 7 建屋・機器フラジリティ評価
RK6WG5-14-9-2 附属書 7-2X（参考）断層変位フラジリティ評価における構造物基礎への断層変位作用位置に係る不確かさの取り扱いの考え方と適用例
RK6WG5-14-10-1 8 事故シーケンス評価
RK6WG5-14-10-2 断層変位 PRA 実施基準(中間報告)外的事象 PRA 分科会コメント対応
RK6WG5-14-11-1 作業会内誤記チェックの進め方
RK6WG5-14-11-2 原子力発電所に対する断層変位を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準 202X 転載許諾手続きの進め方（案）
RK6WG5-14-11-3 原子力発電所に対する断層変位を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準 202X 転載許諾手続き 5 章、8 章
RK6WG5-14-参考 河井委員からのコメントの対応（断層変位 PRA 実施基準案）

5. 議事概要及び決定事項等：

(1) 定足数の確認

議事に先立ち委員 20 名に対して、出席者 16 名で定足数（2/3 以上）を満たしていることを確認した。

(2) 前回議事録確認

今後 1 週間程度を目途にコメントを受け付ける。コメント等がなければ、本案を正式議事録とする。

(3) 最終報告に向けた検討スケジュール/準備資料（RK6WG5-14-2 / 酒井幹事）

- 準備資料「②実施基準新旧比較（標準委員会中間報告からの変更箇所を着色）【主要内容部分抜粋】」は、変更箇所のある頁単位で比較表を作成することとした
- 準備資料「③実施基準新旧比較（完本ベース）」は、今回は準備しないこととした。

(4) 標準委員会意見対応（RK6WG5-14-3 / 酒井幹事）

- 17 吉原委員コメントに対する対応における「～6.3.3 以降に関しては、本体規定とするには時期尚早と判断し、～」については、細かすぎるという趣旨で記載することとした。

(5) まえがき（RK6WG5-14-4 / 神谷幹事）

- まえがきの修正文案については、糸井主査から神谷幹事へ送付することとした。

(6) 解説（RK6WG5-14-5 / 神谷幹事）

- 「4.2 対象とする断層変位について」の「地表付近の痕跡が消失している」については、「痕跡が認められない」との表現とすることとした。
- 「7 その他」において、工学的に対応できる旨を記載することを検討することとした。

(7) 各箇条本文・附属書修正内容（RK6WG5-14-6 / 佐々木委員）

- 「4.2.2 専門家判断の活用 a 一般事項」の TI 及び TFI の注記の記載について検討することとした。

(8) 各箇条本文・附属書修正内容（RK6WG5-14-7 / 田中委員）

- 「5.4.1 広範な事故シナリオの選定 b 留意事項 1 副断層を対象とする場合の事故シナリオの分析及び選定 1.1」の注記の記載について、再度検討することとした。

(9) 各箇条本文・附属書修正内容 (RK6WG5-14-8 / 青柳委員)

- 図 6.1.2 の「(≡建屋支持地盤)」は削除する。また、「地震基盤」は削除することとするが、本文で使用している場合には残すこととした。
- 図 6.1.3 の矢印の始点等について確認することとした。
- 図 6.1.6 の縦軸の記載については、本文規定では「超過頻度」で統一したはずなので、「(超過確率)」の記載が必要か確認することとした。

(10) 各箇条本文・附属書修正内容 (RK6WG5-14-9 / 美原委員)

- 附属書の番号・目次を整理して反映することとした。
- 「7.5 現実的応答の評価 7.5.1 一般事項」の「後者の方法を用いる場合には、標準応答及び妥当性確認事例の有無に留意する。」は、「いずれの方法を用いる場合にも、・・・」に修正することとした。また、「7.5 現実的応答の評価 7.5.1 一般事項 b 応答係数に基づく方法」の「ただし、・・・」の記載について検討することとした。
- 「7.7.2 損傷の相関の評価手法の選択」において、「感度解析を行い」と記載している箇所については、「感度解析を行うために完全従属を仮定することができる」などの表現に修正することとした。

(11) 各箇条本文・附属書修正内容 (RK6WG5-14-10 / 藤岡代理)

- コメント等なし。

(12) 誤記チェック/転載許諾の進め方 (RK6WG5-14-11 / 酒井幹事)

- 誤記チェックでは、「てにをは」のチェックに加え、論理的整合性等のチェックも合わせて行うこととした。
- 転載許諾に関して、判断プロセスを残す必要があることから、全てをリストアップすることとした。また、これに関連して記載フォーマットを以前の調査専門委員会で用いたものとする事とした。

6. 次回日程等：

第 15 回作業会 2019 年 10 月 21 日 (月)

場所 電力中央研究所大手町オフィス 711 会議室

以上